

NO. 81
春号
令和6年
(2024年)

環境ひらかた



環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



PFAS (ピーファス)

アメリカ軍の基地周辺で環境省の暫定目標値を上回る PFAS が検出されたことが報じられました。この「PFAS」耳慣れない言葉ですがいったい何？という事で今回はこの言葉を取り上げてみました。PFASとは“有機フッ素化合物”の総称で4,700種類以上あり、水や油をはじき、自然界ではほぼ分解されないという性質があります。主な用途は、フライパン、泡消火剤や防水・防汚加工の衣類、半導体製造などさまざまな所で使われていますが発がん性がある可能性が指摘されています。



人新世

「人新世」とは、人類が地球の環境を激変させた結果、「完新世」が終わったとして提起された新たな地質年代のことで、環境問題をはじめ、経済学や哲学などでも自然との向き合い方を論じる概念として広がってきています。地質年代とは、地球の歴史を地層の特徴に応じて区分した呼び方のことで、現在は新生代第四紀の「完新世」と呼ばれる。1万1700年前から始まり今に続いているとされています。

ひとこと



気温の乱高下に体調管理が大変です。これも温暖化の影響かと思ってしまうのですが、何でもかんでも“温暖化”のひと言で片付けないで根本のところをしっかりと考えたいものです。

さて、この会報誌を制作している今は正に年度末です。各種報告書の作成に追われている中での会報誌の作成！毎年のことながら「何とかならんのかい！」と自分に腹を立てながら頑張っています。

そんな状況ではありますが、毎日事務所に来る途中で見かける花木たち、そのつぼみが、日に日に膨らんで来るのを見て癒されています。



ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第81号

令和6年4月1日発行（年4回発行）
発行：（特活）ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号
サプリ村野内（旧村野小学校）

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者：井上 浩一 編集責任者：丸井 晶子

この会報誌は再生紙を使用しています



in 村野サプリ

ひらかたエコフォーラム 2024 200名を超える来場者で賑わう！

2月10日、今年も“本気で考えよう ストップ ザ 温暖化”をテーマに「ひらかたエコフォーラム」を開催しました。昨年は午前午後の2部制で実施しましたが、今年は1部での開催としました。10時から13時までの3時間の中で、「環境表彰」「温暖化の取り組み報告」「講演会」を行うと共にブースでのクイズラリーも実施するなど、タイトなスケジュールとなりましたが、昨年を上回る来場者もあり、成功裏に終わることができました。出展いただいた団体、事業者の皆様にはこの書面をお借りし改めてお礼申し上げます。

令和6年度総会のお知らせ

令和6年度の総会を下記の通り開催します。

日時：2024年5月25日(土) 10:30～

会場：環境保全研修室
(サプリ村野環境情報コーナー隣)

詳細は P6 をご覧ください



*****目次*****

ひらかたエコフォーラム 2024 開催	P1
エコフォーラム 2024 報告	P2
インターン生感想	P3
部会報告	P4・5
お知らせコーナー	P6
環境トピック VOL.47	P7
環境ミニ知識	P8



エコフォーラム2024



環境表彰受賞者紹介

団体事業者の部は「昆布のくらこん」「ひらかた信用金庫」が、個人の部では藤井由美さんがそれぞれ表彰されました。



各ブース紹介

6つのブース、竹取物語の会、関西リサイクルシステムズ、

天の川を清流にする会、淀川管内河川レンジャー、環境ネット、リユースコーナーは、たくさんの参加者で賑わいました。



講演 脱炭素社会実現のためには

昨年に引き続き今年も講演会を実施しました。

講師に環境省近畿地方環境事務所地域循環共生圏・脱炭素推進グループ 総括係長 阪本 悠佑氏を迎え「脱炭素社会実現のためには」をテーマにご講演いただきました。

講演のあと質疑応答をいただきましたが、たくさんの質問が出ました。講演会終了後、講師の阪本氏からは「思っていた以上に沢山の質問がでましたね。皆さんそれだけ関心が高いという事ですね」との感想を述べられていたように、「質疑応答」に時間がとられたからという訳ではありませんが、意見交換の時間が十分とれなかったことは残念でした。講演会参加者からは「今の状況がよく分かった」「私たちがしなければいけない具体的なことがよく分かった」などの感想が聞かれました。



環境トピックス

Vol.47

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。

今回は、「浮体式洋上風力発電 実用化に向けた研究組織設立へ」「温室効果ガス排出量の開示義務づけなるか」の問題です。

◆浮体式洋上風力発電 実用化に向けた研究組織設立へ



秋田県沖の洋上風力発電

ヨーロッパでは導入とコスト低下が急速に進み、直近5年間で3倍になっているという洋上風力発電。周囲を海に囲まれた我が国でも、この洋上風力発電に期待が寄せられています。設置の適地についてもいろいろと候補地が挙げられ検討されてきましたが、風車の土台を海底に固定するタイプに適した遠浅の海域が少なくなかなか進んでいません。そこで注目されているのが、風車を海に浮かべる「浮体式」の技術です。

「浮体式」の商用化については「発電コストの低減」「大量生産に向けた技術開発」などの課題があります。このほど、これらの課題解決に向け、基盤技術の共同開発を行う技術研究組織が、関西電力や中部電力などの大手電力会社のほか、三菱商事や丸紅などの大手商社、それに通信大手のNTTの子会社など合わせて14社が連携し、研究組合を設立することになったと報じられました。

日本は2030年に二酸化炭素46.8%の削減目標を掲げていますが、2021年度の二酸化炭素排出量は前年度より2%増加しているのです。政府は2030年の電源構成比率における再生可能エネルギーの比率を22~24%としていますが、2018年の実績は17%。わずか5~7%増加させる事にしかなりません。ぜひこの研究の成功に期待したいところです。

◆温室効果ガス排出量の開示 義務づけなるか

金融庁の「金融審議会」で、金融庁は脱炭素社会の実現に向けて、上場企業に対し温室効果ガスの排出量などの開示を義務づける方向で、法改正も視野に来月にも新たに有識者会議を設置し、具体的な検討を進めていくことになったと2月19日明らかにしました。

こうした温室効果ガスの排出量に関する開示の義務付けは、ヨーロッパ連合に加盟する各国で来年度から順次開始されるという事ですので、今回の法改正への動きは、日本としてもその流れに乗った形となると言えるのではないのでしょうか。消費者にとっては商品選びの指針の一つになると共に、企業にとっては社会的評価に繋がることにもなると考えられます。



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネットワーク会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◆◆エコキャップの回収報告◆◆◆

エコキャップの取り組みを通して、環境問題に関心を持ち行動するきっかけとなることを願っています



●エコキャップ R6年3月19日搬入分

重量：160kg	(取組開始からの累計	9,031.8 kg)
個数：68,800個	(取組開始からの累計	3,883,674個)
CO ₂ 削減量：505.6 kg	(取組開始からの累計	28,451.77 kg)

搬入したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金され、公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子供とその家族が利用できる滞在施設の建設費及び運営に充てられます。詳しくは公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのH・Pをご覧ください。

自然エネルギー学校「再生可能エネルギー施設見学」のご報告

先月3月15日に桜井市の再生可能エネルギー施設3カ所の見学に行ってきました。紙面の関係で詳しい報告は割愛させていただきますが、参加者17名(スタッフ除く)からは、一様に、水力発電、バイオマス(廃棄物)発電、太陽光発電の実際を見学し、説明を受けることで、再生可能エネルギーについての理解が深まったとの感想が聞かれました。詳しい報告はまたの機会に♪

令和六年度通常総会開催のお知らせ

昨年コロナが2類から5類に引き下げられ、令和5年度の総会は「出来るだけご出席をお願いします」と会場への参加を呼びかけをさせていただきました。しかしまだ用心してか、会場参加は少数でした。

今年の総会は下記の通り開催します。総会後には久しぶりに会員交流会も行いますので、沢山の方のご参加をお待ちしています。

日時：5月25日(土) 10:30～ 場所：サプリ村野南館2階 環境保全研修室

2024年度は任期満了に伴う役員改選期です。いろいろご都合もあるかと思いますが、なにとぞご出席をお願いします。尚、議案書は5月半ばの発送を予定しています。

この春3名の学生がインターンシップに来てくれました

この春のインターンシップは2月13日にスタートしました。まずは「NPOって何だろう」に始まり、「環境問題」「環境ネットの取り組み」についてなどを学び、学びをベースに、子ども向けの環境クイズBOXのクイズの作成や、環境問題における様々な課題の中で解決したい課題を一つに絞り、課題解決に向けた啓発プログラム作り、さらには、環境ミニ講座への参加など、10日間のなかで、様々なことにチャレンジしてくれました。インターンシップを終えての感想を紹介します。



・・・インターン生感想・・・

関西外国語大学 外国語学部 英米語学科3年 梶塚 渉真

インターンシップとして来させて頂き、地球環境保全というグローバルな社会課題に対して、枚方という小さな町から挑戦し続ける貴法人の取り組みに大変感銘を受けました。貴法人での活動を通し、社会人としての在り方や働き方だけでなく、同じ星の住人として地球の未来のために本気で取り組まなければならないことを学びました。これからは担う私たち若者だからこそ、挑戦のバトンを繋いでいかなければならないという自覚を持ち行動していこうと思います。



大阪経済大学 経営学部 経営学科1年 明浄 准平



インターンシップに参加する前は、地球の環境についてあまり考えることはありませんでした。企画書づくりや環境ミニ講座、関西リサイクルシステムズ株式会社の見学などを通して“知ること”の重要性和重要性を深く感じることができました。ひらかた環境ネットワーク会議での10日間の活動を通して、環境問題について考え、新しい知識を得ることができ、環境への自分の行動を考え直す良い機会になったと思います。貴重な経験になりました。

同志社大学 経済学部 経済学科1年 平田 菜々美

インターンシップは、私にとって貴重な経験になりました。地球温暖化対策に関する環境講座の企画書づくりを通して、これまで気づかなかった枚方の環境問題について理解を深めることが出来ました。また、担当者からは環境の知識だけでなく、企画書での文章構成から表現の仕方まで多くのことを教えていただきました。インターンシップを終えた今、以前と比べて、相手に伝える力や考える力が身に付いたと感じています。ここでの経験を今後活かしていきたいと思っています。





部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。



環境教育部会

「カーボンニュートラル」を 身近なところから知ってもらいたい隊！

環境出前授業は前号で紹介できませんでしたが、蹉跎西小学校のエコクラブで昨年 12 月 11 日に「環境問題と電気エネルギーについて学ぼう！」を、そして今年の 2 月 13 日には「穂谷の里山の話しと間伐材を使ったクラフト作り」の出前授業を行いました。



いろんな電気エネルギーの発電の仕組みや省エネの大切さを学びました



間伐材などを使ったクラフト体験で、穂谷の里山など自然を保全することの大切さを学びました



また 2 月 10 日の「ひらかたエコフォーラム 2024」では、環境教育部会と自然エネルギー部会の共同でひらかた環境ネットワーク会議の“展示・体験”ブースを担当しました。



温暖化防止の取り組み意識をシール張りで調査



自転車発電による白熱電球と省エネランプ (LED) の比較体験



エコドライブシミュレーターで、エコドライブを体験

エコフォーラムでの大きな成果は、他部会員との交流や他のブース出展者との交流が図れたことです。今回初めて参加した新部会員からは、全体を見学させてもらい・他団体の活動を知る良い機会だった・環境ネットワークの活動は多くの団結との繋がりが素晴らしいと感じたとの感想に、一同思いを新たにしました。このように環境教育部会は、NPO 全体の活動や横の繋がりも大切にし、楽しい環境教育活動を目指していますので興味のある方は是非一緒に活動しましょう！

ご連絡ください。お待ちしております。

出前授業の詳細は右の2次元コードでご覧いただけます。また活動に興味を持たれた方はお気軽に事務局にご連絡ください。



自然エネルギー部会

カナダの山火事 消失森林面積 日本国土の約 40%に!!

「カナダの山火事による消失森林面積は日本国土の約 40%におよぶ」このことをご存知でしたか？「ニュースで見たけど・・・」という方は多いと思いますが、昨年、大きなニュースとなりましたが、詳しくご存知の方は少ないのではないのでしょうか。焼失面積もさることながら、CO₂の排出量がカナダの 1 年間経済活動で排出される CO₂の 3 倍(約 17 億トン)になったとも言われているのには驚きです。このようなことが起こると、地球温暖化の最大の原因と言われている CO₂濃度は益々上昇します。人間の「経済活動や日常生活」によって排出される CO₂によって、温暖化が進み、熱波、乾燥という気候激変の中で山火事が増え、その山火事が大量の CO₂を排出し、更なる温暖化を招くという「負の連鎖」に陥る前に、私達はこの連鎖を断ち切る行動が求められています。

「連鎖を断ち切る行動といわれても・・・」と思われるかもしれませんが、「再生可能エネルギーで作られた電力の購入」や「4R の実践によるゴミの削減」、「節電・節ガス・節水などの省エネ」などの「チョットした意識行動」が CO₂を増やさないことに繋がるのです。「塵も積もれば山となる！」です。

当部会では、令和 6 年度も、行政や事業者の方々と強い連携、協力体制の中で、この「チョットした意識行動」が結集されるように、街宣活動や勉強会等を推し進めることにしています。

皆さんと一緒に **チョットした意識行動で「CO₂濃度上昇」を食い止めましょう** 勉強会等の開催日が近づきましたら案内させていただきますので、是非とも参加してくださいネ！！令和 6 年度もよろしくお願いいたします。

